

バス停タイムス

2018年5月7日

No.45

発行者

成田隆浩

編集者

教宣部

JR東海労働組合新幹線地方本部

SEK幹部が大井基地構内で自損事故

去る4月16日の早朝6時20分頃、大井車両基地内の「速度規制（20^{キロ}）の標識」に車が激突しました。運転していたのは“SEKの東京支社長”でした。自家用車で早朝出勤した際に、職場内で自損事故を起こしたのです。

事故は、車のバンパーが大破し、ラジエーターがムキ出しになり、標識は地上約20cm位のところで折れ曲がるという大変なものでした。

それだけではありません。大きな音に驚き事故現場に急行した社員たちからは「支社長は酒臭かった」という声があがっているのです。



JRからの出向者である“支社長”の責任は重い！

もし酒気帯び運転であれば大変な事です！一般道なら当然道路交通法違反であり逮捕です。車両基地構内は公道ではないから許されるという問題ではありません。会社は事実を明らかにするべきなのは当たり前です。

私たちは事故について、会社（幹鉄事）に事実を問いました。

会社の説明は、①駐車場で駐車しようとしたときにブレーキとアクセルを踏み間違えて、速度規制標識に衝突して破損させた。②朝早く来る用事があったため、自家用車で出勤した。③飲酒はしていない。等でした。しかし、会社の説明はおかしなことが多すぎます。

会社の説明に異議あり！

支社長の車は、構内の車がすれ違える程広い道をまっすぐ走ってきて、車の前部が標識に激突しています。ブレーキ痕もありません。駐車しようとしていたとはとても思えません。ですからアクセルとブレーキの踏み間違いも起こるはずはありません。

また、総合点呼があるので早めに来る必要があったといいますが、電車で来ることは十分可能であり、わざわざ車で来る理由はありません。通勤バスに乗れない理由が何かあったのでしょうか？会社の説明は疑問だらけです。

支社長の冷静とは思えない行動はなぜ？

支社長の行動に関する疑問はまだあります。①事故発生直後に、その場を離れ制服に着替えてきた。②大破した車をブルーシートで中途半端に覆い隠した。



③折れ曲がった標識を必死に立て直そうとした。④事故の発生を警察に通報しなかった。など不可解な行動を続けています。そして、⑤総合点呼にもかかわらず、支社長は一言もしゃべらなかったそうです。支社長は通常の状態に運転していたとは到底思えません。

職場では「事故後3時間経過した9時ごろになっても“臭かった”」「酒臭いから通勤バスではなくて車で出勤したのだ」「以前から復命の時に酒臭いことがよくあった」などという声があがっています。

そして、いまだに車両所内のどこの職場においても注意喚起はおろか、事故の事実さえ明らかにされていません。

SEK支社長とJR会社は真の事実をあきらかにせよ！

連絡先(新幹線地本)
ホームページアドレス
メールアドレス

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5 Tel.03-3201-0350
<http://www.geocities.jp/jrcushinkansen2/right.html>
jrcushinkansen@yahoo.co.jp